

7月1日からレジ袋の有料化がスタートしました！

マイクロプラスチックによる海洋汚染や地球温暖化など人類共通の課題を解決するため、レジ袋の有料化が全国一斉にスタートしました。

マスクを着けて、マイバッグ片手に買い物をするのが、Withコロナの定番スタイルになりつつあります！

なぜレジ袋を有料化するの？

プラスチックは、成形しやすく、軽くて、丈夫で、密閉性も高く、まさに“良いこと尽くめ”の素材として、私たちの生活の様々な場面で役立っています。

プラスチックには100種類以上がありますが、身近で大量に使われるものは主に次の4種類で、汎用プラスチックと呼ばれています。



汎用プラスチック	身近で使われている例
ポリエチレン (PE)	レジ袋、ラップ、紙パック飲料の表面、バケツ、洗剤ボトル
ポリスチレン (PS)	食品用トレイ、ハンガー
ポリエチレンテレフタレート (PET)	ペットボトル、卵パックなど透明容器、衣類、包装フィルム
ポリプロピレン (PP)	ストロー、ペットボトルのキャップ、文具

近年、そうした便利なプラスチックが、海の生態系に深刻な影響を及ぼしていることが分かってきました。

廃棄されたプラスチックは、紫外線の影響を受けながら、川を流れ下り、海を漂ううちに次第に細かくなります。

5mm以下の小さなプラスチックの破片をマイクロプラスチックといい、ウミガメやイルカ、クジラといった様々な海の生き物が海水と一緒にとり込んでしまう結果、消化不良や胃潰瘍などを引き起こし、やがて死に至ります。



このままでは、2050年には海に生息する魚の重量をプラスチックごみの重量が上回ってしまうという予測まで発表されています。

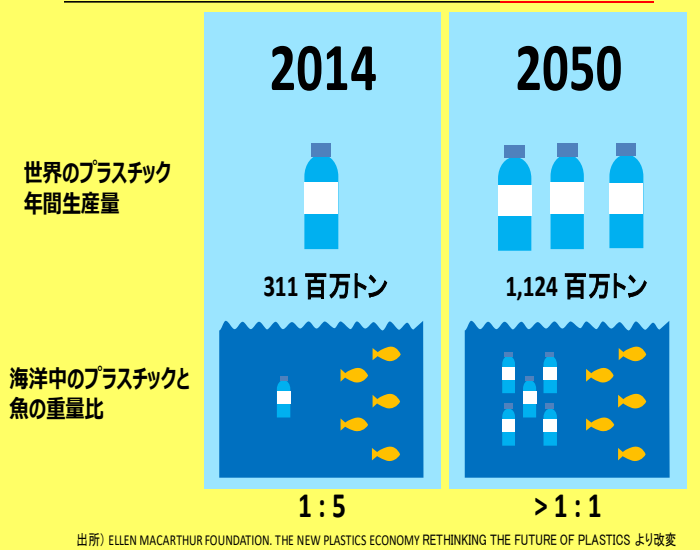
レジ袋は、日本国内で年間300億枚以上が使われており、私たち一人ひとりが毎日1枚使い捨てている計算になりますので、それを減らすことは大切な取組です。

しかし、汎用プラスチックは、生活の様々な場面で使われており、レジ袋の削減は“はじめの一歩”にすぎません。

既に、外食チェーンなどでは、ストローを紙製に切り換えるといった取組も行われていますが、マイバッグを使うと言っても、その中には肉や魚の入った食品トレイや卵パック、紙パック飲料などプラスチック製品がいっぱいですし、コロナ禍でテイクアウトが増え、プラスチック容器の使用が増えるなど課題は山積しています。

レジ袋の有料化をスタートにして、私たちは様々な取組を並行して行っていくことが重要です。

このままでは・・・
2050年には海洋中のプラスチックごみの量が魚の量を上回る



マイバッグ使用時の注意点について



マイバッグは、目につくような汚れやニオイがなくても、知らない間に肉や魚の汁、野菜の土が、付着することがあります。そのまま使い続けると、食中毒菌が繁殖し、新たに購入した食品に菌が付着してしまう恐れがあります。

- マイバッグは定期的に洗いましょう！
- 肉、魚、野菜はポリ袋に入れましょう！
- 肉、魚、冷蔵・冷凍食品などの冷たい物は、まとめて入れ、温かいものと密着しないように入れましょう！
- 食品と日用品を入れるマイバックを使い分けましょう！
- 食品を入れたマイバッグの持ち運びは、できるだけ短い時間にしましょう！

レジ袋
いりません

マイバッグへの切り替え！
できることから始めましょう♪



制度概要などの詳細は、経済産業省のホームページをご覧ください。

